

# レトロモダンな風合いの砥部焼

－ レトロモダンな砥部焼坏土の開発 (R5年度) －

愛媛県産業技術研究所 窯業技術センター 主任研究員 首藤 喬一 ※現県産業創出課

古砥部の風合いや民芸調の表現に適している着色坏土の開発を行いました。

**現状** 砥部には焼き上がりが白い素地になる坏土しか製造されていない

**要望**

- ・色のついた坏土を使いたい
- ・地元の原料を使いたい
- ・コストを抑えたい

**対応** 砥部で産出され、通常の砥部焼に使用される陶石よりも豊富にあり、鉄分を多く含む陶石を使用し、製造コストを考慮して原料や製造工程を調整した坏土を開発



従来坏土 開発坏土

## 試作

### ①酸化チタン添加による素地の色のアレンジ

軸薬厚さ	開発坏土				開発坏土 + TiO <sub>2</sub> 1.0%				開発坏土 + TiO <sub>2</sub> 2.0%				開発坏土 + TiO <sub>2</sub> 3.0%				
	疑似色	L*	a*	b*	疑似色	L*	a*	b*	疑似色	L*	a*	b*	疑似色	L*	a*	b*	
sk8還元	無軸	72.55	1.21	13.04	56.37	4.00	13.21	52.27	2.99	13.32	58.43	5.78	20.75				
	0.2mm	71.96	-1.45	3.08	56.94	0.92	5.13	55.37	-0.56	5.05	58.41	-0.78	7.56				
	0.4mm	68.15	-1.81	2.56	55.52	0.15	3.88	54.51	-1.09	3.98	56.28	-1.17	6.47				
1250℃酸化	無軸	71.13	1.22	10.51	66.75	1.13	18.69	69.83	0.91	21.34	72.40	0.26	19.56				
	0.2mm	65.08	0.93	8.78	62.61	0.91	15.49	61.53	1.74	21.01	61.45	2.07	21.80				
	0.4mm	63.61	0.76	8.17	60.66	0.84	15.06	60.00	1.49	19.36	59.93	1.76	20.04				



### ②鉄粉添加による雰囲気調整 粒径、添加量を変えて 開発坏土に添加



- 通常の砥部焼に使われる1級陶石よりも鉄分を多く含む2級陶石が、着色坏土に適していることが分かりました。
- 通常の砥部焼と同程度の物性を有し、釉薬の共用や同温度帯による焼成が可能であることが分かりました。
- 酸化チタンや鉄粉を添加し、素地の色や雰囲気をアレンジすることができました。

本研究は、県単研究「レトロモダンな砥部焼坏土の開発」により実施しました。